

⑧6 「Aomoriインフラアカデミー」プロジェクト

受賞機関 青森県 県土整備部

キーワード 人材育成、産学官連携、階層別アプローチ、インフラとエンターテインメントとの連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

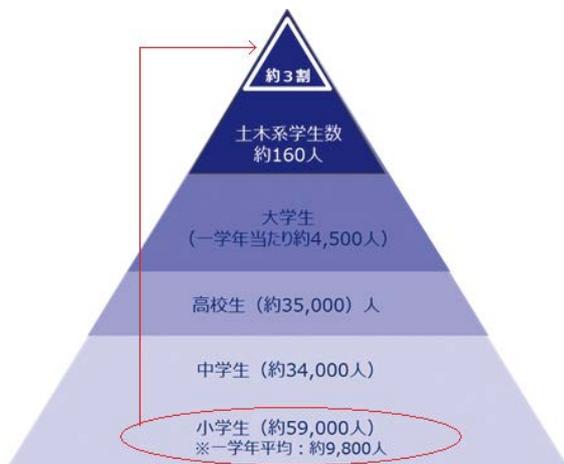
「伝わる」ことと「理解される」ことを重視した土木に関する広報と人材育成スキーム。県内一学年の小学生が何人土木系人材となり、県内に戻ってくる人材は何人かという分析による「還流モデル」により人材育成に焦点化した実践や、産学官連携による建設業界の担い手不足問題解消の取り組みであることが評価された。

1. はじめに

「Aomoriインフラアカデミー」とは、従来の発信型（一方通行型）の広報から脱却し、広報や人材育成の本質である「伝わる」ことと「理解される」ことを可能とするため、本県独自の定量的な指標に基づいた最適なアプローチ方法を導き出した、産学官連携による土木に関する広報・人材育成の基本スキームである。

2. 事業の概要

まず、本県の土木系人材が抱える現状や課題等を定量的かつ体系的に捉える必要があると考え、県内中・高校生の過去5年分（約12万人分）の進路動向等を調査・分析し、導き出された結果の一つが下図の還流モデルである。これは、一学年当たり約1万人いる本県の小学生が大学へ進路を進めた時、「土木系」の進路を選択するのは僅か160人程度（約2%）、更に本県に戻ってくるのはその3割の50人にも満たないということを示している。つまり、残念ながら現在の小学生のうち「約2%しか土木系人材にならない」ということになる。また、このような状況下において、たとえ何千枚と広報紙を配ったとしても情報は行き届かない、つまり「伝わらない」という課題も明確となった。



本県出身土木系学生の還流モデル図

3. 事業の成果

「Aomoriインフラアカデミー」の最大の特徴は、階層別に手法や内容を分けている点である。これは、「伝わる」ことと「理解される」という視点に加え、「ワクワク感」や「おもしろさ」を与えることが若者を育成することにおいて極めて重要だと考えるからである。

具体的には、県内外の主要大学や高等専門学校とパートナーシップ協定（以下、PS協定）を締結し、進路選択が目前となっている学生に対しては確実に「伝わる」情報基盤を構築したことや、PS協定校における授業カリキュラム化にも取り組み、座学と実務とのマッチングなど、土木系学生の学習支援等に取り組んでいる。

一方、小・中学生に対しては、インフラと日常生活との関わりや、クイズ形式による本県インフラの学習など、楽しく親しみやすい教材（下図）を使った出前授業に取り組んでおり、9割近くの生徒から「理解しやすい」「良いイメージとなった」との回答を得ている。この教材は、地元アイドルが所属するタレント事務所とアンバサダー契約して作成したものであり、また、アンバサダー就任を記念して作成したグッズ販売の収益を土木系学生が在籍する県内学校へ学習教材の支援に全額充てるなど、インフラとエンターテインメントとの連携による未知の「化学反応」により、建設業界に新たな光が差すことにも期待している。



ブランド教材（DVD教材）令和3年3月版

4. おわりに

人材育成は、「種を蒔き、水をやり、発芽後は適切な環境下で」という植物や農作物を育てるプロセスと同じように、愛情や熱量を注がなければ実を結ばないという奥の深い取組である。

「Aomoriインフラアカデミー」は、本県建設業界が抱える担い手不足問題にも一石を投じるようになってくれると信じて、今後も着実に取組を継続していくこととしている。